

特集
島根
～神々の国の「田舎」づくり～

Special Features
Shimane
Constructing "pastoral districts" in the kingdom of the gods

守る(今を支え育てる)
Defend (Support and develop the present)

子育てをみんなで応援

しまね子育て応援パスポート 

今岡 宏 IMAOKA Hiroshi

島根県健康福祉部/青少年家庭課/
少子化対策推進室



1—5・6・9・7ショック

5,697人。これは2005年の島根県の出生数です。戦後直後は32,000人を越えていましたが、その後は減少を続け、統計を取り始めてから最低の出生数を記録しました。最近の10年は6,000人台をキープしてきましたが、ついに6,000人を割り込んだことから、地元紙でも「5・6・9・7ショック」として取り上げられるなど、急速な出生数の減少に、かなりの危機感を覚えました。

少子化の進行は、地域の活力を低下させるものであり、島根県においても少子化対策を重点政策として、様々な取り組みを行ってきました。その柱の一つが「子育て環境づくり」です。地域をあげて子育てを応援し、不安なく子育てできる環境を整え、子どもを生み育てやすい地域社会を実現することにより、少子化の流れに歯止めをかけるのがねらいでした。

2—しまね子育て応援事業「こっころ」誕生

近年、核家族化や地域のつながりが薄れていく中で、子育て家庭では育児の知識も十分ではなく、また、地域の中で子どもたちが育っていく環境がなくなりつつあるなど、孤立感や子育てへの負担感・不安感が増大してきました。そうした中で求められたのが、地域が協力して子育てを応援する環境づくり「子育ての社会化」を進める取り組みでした。

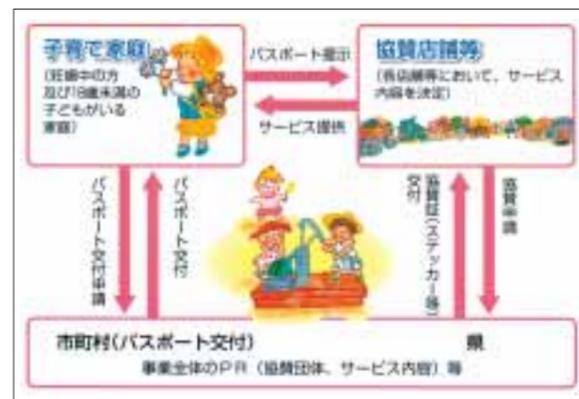
そのため、子育てを地域で応援するシンポジウムやフォーラムなど、子育ての社会化を目指したキャンペーンを実施しました。しかし、参加者の顔ぶれはあまり変わらず、本当に伝えたい人たちへの広がりには欠けていました。また「地域をあげて子育てを応援しよう」という雰囲気もキャンペーンの時だけの盛り上がりで、なかなか続いていかない状態でした。

「何とかキャンペーンの時の雰囲気が続かないものか」「地域が一体となった子育ての輪が広がらないものか」と考えていたときに目に飛び込んできたのが、石川県が始めたばかりの「プレミアム・パスポート事業」でした。この事業は、3人以上子どもを育てている家庭にパスポートを交付し、協賛店で提示すると割引が受けられるというもの。早速、石川県に調査に出かけ、いろいろと話を聞きました。その事業をヒントに、対象家庭の範囲やサービスの内容を拡大することで、さらに大きな広がりをもつ事業となり、これまで県が目指してきた「地域全体で子育てを応援する雰囲気づくり」につながるのではないかと考えました。

こうして、行政や企業、住民が一体となって子育て家庭を応援する施策として、しまね子育て応援事業「こっころ」が誕生しました。

3—こっころの仕組み

島根県と県内21市町村の共同事業として2006年の7月にスタートした「こっころ事業」ですが、仕組みはいた



■図1—こっころの仕組み



■写真1—こっころ事業オープニングセレモニー

って簡単です。子育て家庭が、市町村役場で交付を受けた子育て応援パスポート“Coccolo(こっころ)”を協賛店で提示すると各種のサービスが受けられるというものです。

対象は、18歳未満の子ども(満18歳となった最初の3月31日をむかえるまで)がいる家庭と妊娠中の女性がいる家庭です。子どもの人数は関係ありません。現在、同様の事業に取り組む自治体がたくさんありますが、スタート時に対象となる家庭の範囲がここまで広いものはなかったように記憶しています。パスポートの交付枚数も35,000枚を超え、対象となる70,000世帯のほぼ半分が“Coccolo”パスポートの交付を受けています。また、協賛店舗数も既に1,600店を超えており、本県の経済規模からするとかなり多いものではないかと思っています。これも、地元の企業や商店の方々のご理解とご協力によるものと感謝しております。このように、こっころ事業は地域に根付き、今では事業としての市民権を得たように感じています。



■写真2—子育て家庭用パスポート



■写真3—こっころを利用し、ベビー用品を買い求める親子



■写真4—お父さんのひざに抱かれ、カットを受ける子ども

4—“Coccolo”って?

“Coccolo”とは、イタリア語で「かわいい子ども」という意味で、子どもを抱っこしてあやすときに使われる愛情あふれる表現です。手前味噌になりますが、音の響きもやさしく、日本語の「こころ」にもつながる優れた名称だと思っています。

また、“Coccolo”のイメージにピッタリだったのが、島根県江津市在住の童画家佐々木恵未さんの描く童画の世界でした。“Coccolo”の響きとかわいらしいイラストが大人気となり、これが

県民に受け入れられ県内へ広がっていった大きな要因ではなかったかと思っています。

5—創意工夫された協賛店のサービス

協賛店は、それぞれの得意分野を生かし様々なサービスを提供しています。人気が高いのは、やはり割引です。ケーキ屋さんやレストラン、子ども用品を割引くお店などが人気です。お子様コーナーを持ち、子どものカット料金を割引く美容院もあります。また、ポイントサービスも非常に好評です。

しかし、協賛店のサービスはそれだけではありません。自宅出張してペンキ塗りの指導や体験をさせてくれる塗装屋さん、肉を焼くところからトッピングまで体験し、その場で食べることができるハンバーガーショップ、体験

サービスや工場見学をさせてくれる協賛店・協賛企業もあります。

このように、たくさんの協賛店の様々なサービスによりこっこ事業は支えられています。昨年の3月には、その中でも優れたサービスを提供した協賛店を表彰しました。そこで、鳥根県知事表彰として「しまね子育て応援賞（こっこ賞）」を受けた協賛店のサービスを紹介します。

●JAいずも

スーパーやコンビニエンスストアを営んでいるJAいずもでは「こっこスタンプカード」を発行し、ポイントが貯まると日用品と交換してくれます。

これだけですと他の協賛店と変わりありませんが、JAいずもでは回収したポイントカードの枚数に応じて、地域の子育て支援事業に寄付する取組みをしています。昨年は、地域の子育て支援施設に絵本などが贈られました。こんなすばらしいサービスを考えついでくれるとは、夢にも思っていませんでした。

●隠岐汽船

本土と隠岐の間をフェリーでつなぐ隠岐汽船では、妊娠中の女性に対し、上等級の客室利用をサービスしています。2等室の料金で1等室や特等室が利用できるというもので、特に子ども連れの妊婦さんからは、「ゆったりできて大変ありがたかった」との声が寄せられています。



■写真5—ガーデンテーブルの塗り直しに挑戦する家族

●リフレパーク「きんたの里」

温泉施設きんたの里では、レストランのオリジナルメニューとして「こっこランチ」を発売し、子育て家庭への割引サービスをスタートしました。こっこ事業のスタートに合わせ、何かおもしろいサービスはできないかと考えた末にこのメニューを思いついたようで、こっこの名前にちなみ、コロッケを中心にした子ども向けのランチができあがりました。独自の発想で“Coccolo”の知名度アップに貢献しています。

●竹内畳店

竹内畳店では、畳の割引のほか工場の見学やミニ畳づくりの体験サービスを実施しています。特に、ミニ畳づ



■写真6—オリジナルメニュー“こっこランチ”



■写真8—こっこ祭り



■写真7—出張「ミニ畳教室」



■写真9—こっこクリスマスキャンペーン抽選会

くりは、学校や子ども会への出張も実施しており、地域での子育て応援に積極的に取り組んでいます。

●紺屋町商店街振興組合

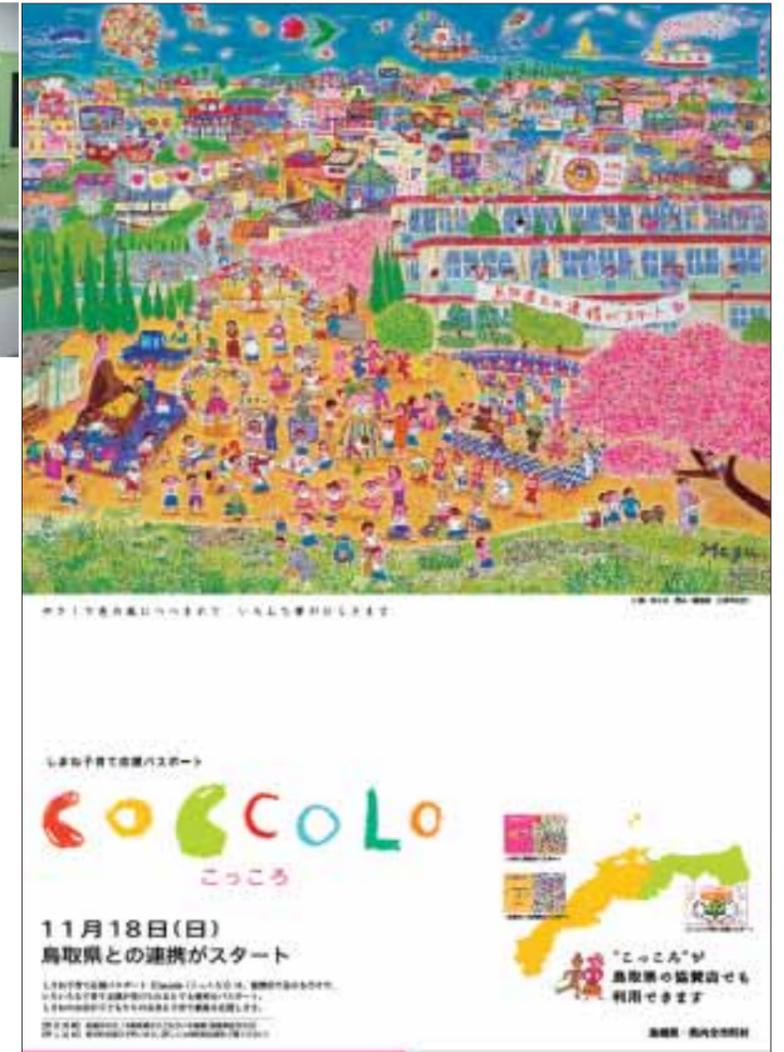
紺屋町商店街では商店街をあげて“Coccolo”に協賛しています。「人にやさしい対話のある街」を街づくりのテーマとしており、年間を通じて季節感あふれるイベントを開催しています。こっこをモチーフに「こっこ祭」「子ども図画展」など親子で楽しめるイベントを企画しています。

このように、今では様々なサービスを提供している協賛店ですが、その募集に県内を駆け回っていた頃は、企業や商店の反応は必ずしも良いものではありませんでした。「他人のふんどしで相撲をとることばかり、最近の行政は考える」とか

「こんなことより、もっとやらないといけない対策がたくさんあるでしょう」とか言われました。しかし、数多くの企業や商店を回るうちに、「地域での子育て支援の雰囲気づくりは大切なことだ」とか「子どもたちの笑顔があふれる町にしたいので協力しましょう」と言う方々が少しずつ出てきました。それが広まり、やがて、たくさんの協賛店が参加するようになりました。

6—今後の取り組み

最近では、こっこ事業の新たな展開も始まっています。それは「子育て応援パスポート事業」の鳥根・鳥取両県での共同実施です。昨年の11月から鳥取県でも同様の事業がスタートしましたが、両県のパスポートがどちらの県でも使えるようになりました。県境に住む方々には、とても喜ばれています。今後も、こっこ事業が県を越えて広がっていくことに期待を寄せています。



■写真10—鳥取県との連携を知らせる「こっこポスター」

一方、中山間地域や離島で、パスポートの交付枚数や協賛店数が少ないという課題も残されています。市街地ばかりではなく、そういった地域での協賛店の拡大も必要です。地域の人がよく利用する店に協賛店になってもらい、パスポートの交付率を上げる取り組みが必要と考えています。こうした課題を一つ一つクリアしながら、こっこ事業をさらに広めていこうと思っています。

2008年の7月でスタートしてから2周年を迎えようとしています。かなりのエネルギーを注いだこっこ事業も軌道に乗り、正直、ホッとしているところです。これからは、地域の協賛店の好意を無駄にしないよう継続していくことが大切だと感じています。地域の盛り上がりで地域の子育てを考え、地域の力で実行する。このことが、今後、求められる地域のあり方だと考えています。こっこ事業がきっかけとなり、そうした動きがさらに広がっていくことを期待しています。